

リスクを負った末に待っているのは、至福・絶頂・陶酔か、あるいは落胆・悲痛・絶望か…私たちはリスクを負うとき、結果を想像しながらその大きさに比例した興奮やスリルを味わうことができる。本書は、人々を“誘惑”するリスクの一面に注目し、リスクからの回避とリスクへの志向を外側から眺めるのではなく、体験し寄りそう立場で、直面するときの感情を明らかにしようとした一冊である。

義塾文学部で実際に行われた総合講座の形式に基づき、情報化社会や戦争、文学、芸術、ギャンブルといったさまざまな世界におけるリスクを実践者の視点から描いた全14講は、人間の根源への新しい視点を加えてくれるに違いない。



「リスクの誘惑」
宮坂敬造 岡田光弘、坂上貴之、巽孝之（以上文学部教授）、
坂本光（文学部准教授）編
慶應義塾大学出版会 / 定価3360円（税込）

人はなぜリスクに魅せられるのか？



慶應義塾に関連した出版物や
教職員の最新著書などを中心に、
本に関する情報をお届けします。

（ここでご紹介している本に関するお問い合わせ等は
各発行所または書店にお願いいたします）

教職員執筆の最新刊より

- 香川敏幸（大学名誉教授）ほか編著
『グローバル・ガバナンスとEUの深化』 慶應義塾大学出版会 3,990円（2011年10月）
- ジョーン・ディディオン著 池田年穂（薬学部教授）訳
『悲しみにある者』 慶應義塾大学出版会 1,890円（2011年9月）
- 田代和生（大学名誉教授）著
『新・倭館—鎖国時代の日本人町』 ゆまに書房 1,890円（2011年9月）
- 駒形哲哉（経済学部教授）著
『中国の自転車産業—「改革・開放」と産業発展』 慶應義塾大学出版会 4,410円（2011年7月）
- 奥田敦（総合政策学部教授）ほか編著
『イスラームの豊かさを考える』 丸善プラネット 1,575円（2011年6月）

（編著者の職名は発行時のもの）

「広く交際すること」を心がけた福澤先生は、生涯の中で非常に多くの人々と手紙のやりとりを行った。残存する手紙の名宛人の総数は約630人に達し、その範囲も、家族や塾生をはじめ、政治家や実業家など多岐に及ぶ。

本書は福澤先生の手紙2564通を網羅した『福澤諭吉書簡集』から、その生涯や思想を象徴する手紙を選び出し、文字の使い方を現代の読者が読みやすいように改め編集したもの。その時々の思いや考えが綴られた118通の手紙は、伝記や回想録とは違う味わいの福澤像を見せてくれる。



慶應義塾編
『福沢諭吉の手紙』
岩波文庫 / 定価798円（税込）

慶應義塾の二冊